

本人情報シート記載例

モデル事例：認知症（軽度），在宅，独居【表面】

本人情報シート（成年後見制度用）

- ※ この書面は、本人の判断能力等に関して医師が診断を行う際の補助資料として活用するとともに、家庭裁判所における審理のために提出していただくことを想定しています。
- ※ この書面は、本人を支える福祉関係者の方によって作成されることを想定しています。
- ※ 本人情報シートの内容についてさらに確認したい点がある場合には、医師や家庭裁判所から問合せがされることもあります。

作成日 ○○○○年 ○ 月 ○ 日

本人氏名：○○ ○○  
 生年月日：○○○○年 ○ 月 ○ 日

作成者氏名：○○ ○○ (印)  
 職業(資格)：○○市社会福祉協議会(社会福祉士)  
 連絡先：○○-○○○○-○○○○  
 本人との関係：○○市中核機関の相談員

1 本人の生活場所について

- 自宅（自宅での福祉サービスの利用  あり  なし）
- 施設・病院  
 → 施設・病院の名称 \_\_\_\_\_  
 住所 \_\_\_\_\_

2 福祉に関する認定の有無等について

- 介護認定（認定日：○○○○年 ○ 月）  
 要支援（1・2）  要介護（1・2 (3)・4・5）  
 非該当
- 障害支援区分（認定日： \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月）  
 区分（1・2・3・4・5・6）  非該当
- 療育手帳・愛の手帳など（手帳の名称 \_\_\_\_\_）（判定 \_\_\_\_\_）
- 精神障害者保健福祉手帳（1・2・3 級）

3 本人の日常・社会生活の状況について

- (1) 身体機能・生活機能について
- 支援の必要はない  一部について支援が必要  全面的に支援が必要  
 （今後、介助等に関する体制の変更や追加的対応が必要な場合は、その内容等）

在宅で介護保険サービスを利用し、別居の長男や長女の支援を得て生活を継続しているが、最近では食材を大量に買い込んで腐らせる、サービス利用日や時間を忘れて外出するなど、サービス提供が受けられないことが増えてきている。ケアマネージャーはサービスの見直しが必要だと考えている。

(2) 認知機能について

- 日によって変動することがあるか： あり  なし  
 ※ 以下のアからエまでチェックしてください（ありの場合は、良い状態を念頭にチェックしてください。エの項目は裏面にあります。）。
- ア 日常的な行為に関する意思の伝達について
    - 意思を他者に伝達できる  伝達できない場合がある
    - ほとんど伝達できない  できない
  - イ 日常的な行為に関する理解について
    - 理解できる  理解できない場合がある
    - ほとんど理解できない  理解できない
  - ウ 日常的な行為に関する短期的な記憶について
    - 記憶できる  記憶していない場合がある
    - ほとんど記憶できない  記憶できない

モデル事例 : 認知症 (軽度) , 在宅, 独居【裏面】

- エ 本人が家族等を認識できているかについて  
 正しく認識している  認識できていないところがある  
 ほとんど認識できていない  認識できていない

- (3) 日常・社会生活上支障となる行動障害について  
 支障となる行動はない  支障となる行動はほとんどない  
 支障となる行動がときどきある  支障となる行動がある  
(行動障害に関して支援を必要とする場面があれば, その内容, 頻度等)

鍋を焦がすことが, 3か月に1回程度ある。IHは本人が希望していないため, 使用していない。ヘルパーが来る日や時間を忘れてしまい, 自宅にいないため, ヘルパーが支援に入れないときが, 月に一, 二回程度ある。

- (4) 社会・地域との交流頻度について  
 週1回以上  月1回以上  月1回未満

- (5) 日常の意思決定について  
 できる  特別な場合を除いてできる  日常的に困難  できない

- (6) 金銭の管理について  
 本人が管理している  親族又は第三者の支援を受けて本人が管理している  
 親族又は第三者が管理している  
(支援(管理)を受けている場合には, その内容・支援者(管理者)の氏名等)

別居の長女が定期預金通帳を管理しているが, 日常的な金銭管理は本人が行っている。最近では日常的な金銭管理が難しくなり, 長女が社協の日常生活自立支援事業が使えないか, と相談してきた。

- 4 本人にとって重要な意思決定が必要となる日常・社会生活上の課題  
(※ 課題については, 現に生じているものに加え, 今後生じ得る課題も記載してください。)

介護保険サービス提供事務所からは, ケアマネージャーがサービス利用を増やす必要がある, ということが本当に本人の意向に基づいているのかとの疑問が示されている。また, 長男や長女からは, これ以上本人に関わる時間がとれないなかで, 本人の一人暮らしの継続について心配との意見。本人は自宅以外の生活については一切考えておらず, どのように生活していくことができるか, かなり早急に検討していくことが必要になっている。

- 5 家庭裁判所に成年後見制度の利用について申立てをすることに本人の認識

- 申立てをすることを説明しており, 知っている。  
 申立てをすることを説明したが, 理解できていない。  
 申立てをすることを説明しておらず, 知らない。  
 その他

(上記チェックボックスを選択した理由や背景事情等)

説明についての理解は良好。しかし, 長女にやってもらうのに手続きが必要なのか, と疑問を述べられる。また, 長女は仕事や家庭のことが忙しく, 頼むのは悪いという気持ちや, 長女から「そろそろ施設に入ることを考えて」と言われた言葉に対して抵抗感を持っている。

- 6 本人にとって望ましいと考えられる日常・社会生活上の課題への対応策  
(※御意見があれば記載してください。)

本人は自分の希望や思いを他者に伝えることができ, その実現に向けて支援関係者はこれまでも関わってきている。しかし, 徐々に認知機能が低下していることはあり, 支援体制をこれまでとは違う内容で検討することも, 本人の安全や安心のためには必要なことである。福祉サービスの利用などの契約行為の代理ができる形が望ましく, 本人もそれを希望している。家族の思いも支えながら, 安易に施設入所という選択肢にならないためには, 第三者の担い手が, 本人の意思や意向を尊重しつつ家族とも調整をとっていくこと, そのために支援関係者と連携体制をとり, チームとして本人を支えていく体制をつくれることが重要である。